ミタイケンひろしま

2020年注目の瀬戸内エリア

ミタイケンひろしま
せとうち広島デスティネーションキャンペーン
2020.10/1▶12/31

せとうちパレットプロジェクト

JRグループと、せとうち広島デスティネーションキャンペーン推進協議会は、2020年10月から12月まで「せとうち広島デスティネーションキャンペーン（以下、せとうち広島DC）」を開催。せとうち広島DC向けに観光列車と観光船が投入され注目を集めている。今回は新観光列車沿線や新観光船航路付近の魅力的な観光素材を紹介する。

2020年秋はせとうち広島DC

「せとうち広島DC」のキャッチフレーズは「ミタイケンひろしま」。「せとうち広島は、まだ見ぬ絶景、初めて食べる美味しいグルメ、新たな体験、知られざる歴史や文化など、未知なる魅力がいっぱい。」をコンセプトに、これらのせとうち広島の様々な「ミタイケン」を体験してもらいたいという思いが込められた。

せとうち広島デスティネーションキャンペーン推進協議会の主な構成団体は、広島県、広島県観光連盟、広島県内外市町、広島県内観光交通事業者、JR西日本などで構成。

せとうち広島DCに先駆けて2019年10月から12月までの期間は「せとうち広島プレDC」を開催した。「クルーズ」「サイクリング」「観光列車」に加えキャンペーンのコンセプトである4つの体験「観体験」「実体験」「魅体験」「味体験」をテーマとしたさまざまな観光素材を用意し実施された。対象エリアは、広島県全域、山口県岩国市、愛媛県今治市・上島町・松山市、岡山県倉敷市。

注目の瀬戸内

瀬戸内しまなみ海道・多々羅大橋

しまなみ海道の尾道側から4番目の橋で、広島県と愛媛県との県境にかかる斜張橋。多々羅大橋は完成時には斜張橋として世界最長を誇り、その姿は羽を広げたような美しい姿は見る者を圧倒する。また橋の支柱の下で手を叩くとパーンと空に向かい反響していくような「鳴き竜体験」も楽しめる。近年は人気のサイクリングコースにもなっている。

住所は生口島～大三島（愛媛県今治市）。

多々羅大橋　提供：広島県

サイクルシップ・ラズリ

約50台の自転車が積載できるサイクルシップ。曜日限定で尾道駅前桟橋から瀬戸田港を往復運航する。定員は75人。船内では、自転車整備工具の貸し出しや無料Wi—Fiサービス、モバイルコンセントなどが利用できる。自転車を傷つけることなく乗せられるサイクルスタンドや楽に自転車の上げ下げができるよう階段は緩傾斜に設定。タイヤを沿わせる溝もつけてある。土日祝の第3便以降に運航（尾道発は奇数便、瀬戸田発は偶数便）。団体貸切も可能。

1月1日は全便運休となっている。

サイクルシップ・ラズリ

耕三寺

「耕三寺」は、大阪の元実業家耕三寺耕三が慈母への報恩感謝の思いを込めて建立された浄土真宗本願寺派の寺院で「母の寺」と呼ばれている。

堂塔伽藍も西方極楽浄土を思い、奈良・平安時代の浄土教の寺院をオマージュし繧繝模様や丹色を取り入れ建立された。2003年には、15棟の堂塔が国の登録有形文化財に指定された。

耕三寺博物館は、耕三寺家の美術コレクションを、公開するため1953年に、国の登録博物館として開館。重文、重美を多数含む仏教、茶道、近代美術を、随時公開している。

「未来心の丘（みらいしんのおか）」

同博物館が芸術活動の一環として、取り組んでいる。広さ5千平方メートルにもおよぶ白い大理石の庭園で、世界を舞台に活躍されている彫刻家杭谷一東（くえたにいっとう）氏にその制作を依頼している。ここに使用されている大理石のすべては氏のアトリエ（仕事場）があるイタリア・カッラーラで採掘し、コンテナ船で運んできている。丘にそびえ立つ大小様々な形をしたモニュメントや広場、道などは杭谷氏が制作に当たっては常に、その石のひとつひとつと対話し、また周囲の景色の形や色、風雨、光といったあらゆる自然との調和（バランス）も考えて創造してきたという。

住所は広島県尾道市瀬戸田町瀬戸田553—2。TEL：0845—27—0800。

千光寺山ロープウェイ

大久野島　うさぎ

魅力的な尾道・瀬戸田・竹原・三原

観光列車と観光船に関心高まる

レモンの生産量日本一を誇る広島県

一年を通して新鮮なレモンを出荷。温暖な瀬戸内の気候の中で太陽をいっぱいに浴びた栄養たっぷりの広島産レモン。生産量日本一を誇る広島県では呉市、尾道市、大崎上島町などの島嶼部を中心に生産されている。8月のハウスレモンから始まり、10月～11月は緑色の鮮やかなグリーンレモン、12月～5月はおなじみのイエローレモンを出荷。さらに、貯蔵・包装技術が発達したことによって、6月～8月にかけて個包装したレモンが出荷できるようになり、一年を通して新鮮なレモンを味わえるようになった。

安芸の小京都　竹原

ちどりの瀬戸田レモン鍋

瀬戸田のレモン鍋

食事処ちどりの瀬戸田レモン鍋は1日3組限定。生口島・瀬戸田町は国産レモン生産量日本一。自慢の檸檬を使った新しい島の名物を作りたいと同店の若大将がすっぱさが癖になるレモン鍋を考案。

広島ならではの牡蠣、瀬戸内海の鯛、蛸も入った贅沢な鍋。

要予約で2人前4600円（税別）～。

広島県尾道市瀬戸田町瀬戸田530—2。TEL：0845—27—0231。

人気の観光スポット

千光寺山ロープウェイ

市街地から尾道を代表する観光スポット「千光寺公園」までを3分間で結ぶ。車窓からは日本遺産に認定された箱庭のような尾道の街並みを、ガイドの案内で楽しむことができる。尾道ならではの風景を満喫。

大久野島

インスタ映え・インバウンドにも人気の瀬戸内海国立公園の周囲4kmの大久野島で約900羽の野生のうさぎと触れ合う。

新幹線停車駅であるJR三原駅から徒歩5分の三原港と、大久野島を約30分で結ぶ航路「三原～大久野島ラビットライン」もある。

鉄道利用の旅行者に非常に便利なルート。運航日は土日祝日で1日6往復。料金は片道大人1600円、子ども800円。往復割引あり。

安芸の小京都　竹原

「安芸の小京都」と呼ばれる竹原。町並み保存地区で昔ながらの町並みを歩くことができる。NHK朝の連続テレビ小悦「マッサン」やアニメ「たまゆら」の舞台として近年人気を集める。JR竹原駅から徒歩で訪れることができる。町歩きの起点は道の駅たけはらがおすすめ。

「未来心の丘（みらいしんのおか）」提供：広島県

観光型高速クルーザー「SEA SPICA（シー スピカ）」

シー スピカ（イメージ）

JR西日本グループおよび瀬戸内海汽船グループは、瀬戸内が一大周遊エリアになることを目指し、これまでになかった観光型高速クルーザーを開発、導入の計画を進めている。これにより、鉄道と船舶を組み合わせた新たな観光周遊ルートが、せとうちエリアに誕生する。

2020年夏のオリンピック・パラリンピックの開催に合わせた竣工、お披露目を目指す。同年秋に開催されるせとうち広島DCでは、瀬戸内の多島美をより贅沢に、より多くの旅行者が楽しめるよう、島めぐり観光に最も適した専用船で、船舶自体も魅力的なものにしていく。

船舶の名前は「SEA SPICA（シー スピカ）」。SPICA（スピカ）は、おとめ座で最も明るい恒星。春の夜に青白く輝き、夜空に春の大曲線を形成する一等星のひとつ。日本では真珠星と呼ばれている。瀬戸内の青い海の上、美しい輝きを放ちながら人を自由で開放的な旅に誘う船。それが瀬戸内観光型高速クルーザーだ。

1階は旧来の高速船とはまったく異なる、特注のソファ型の座席を導入し、各席にはテーブルやドリンクホルダーも設置。また、窓からの景色を多くの乗客に楽しめるように、窓側の座席を少し外側に傾け、背ずりもやや低くした。2階はフリースペースとしての屋外デッキを設け、瀬戸内の島々をイメージしたユニークなソファを設置。また、1階から車いすで上がれるなど、バリアフリーにも配慮。

90人程度の着席定員を予定。バス2台分の乗客が利用でき、旅行会社のチャーターにも適している。Wi—FiやAC電源はもちろん、訪日外国人の旅行者にも対応できる高音質、高画質の案内設備を設け、お土産物の販売などを行う予定。

航路名称は、瀬戸内しまたびライン（Setouchi Shimatabi Line）

・運航エリア

広島港（宇品）と三原港を結ぶ、とびしま海道・しまなみ海道エリア。運航は瀬戸内シーラインで、歌とダンス・トークから構成される公演を各港で展開中。

「SEA SPICA」アンバサダーのSTU48

STU48がSEA SPICA（シー スピカ）のアンバサダーに就任！

・STU48とは

国内6番目のAKB48姉妹グループとして2017年3月に誕生。「瀬戸内」エリアを本拠地とし、「1つの海、7つの県」を中心に活動するAKB48グループ初の広域アイドルグループ。瀬戸内（Setouchi）の頭文字からSTU48（エスティーユーフォーティーエイト）と命名される。

瀬戸内海を主とした船上劇場というスタイルで、歌とダンス・トークから構成される公演を各港で展開中。

せとうちエリアを運行する　新観光列車「etSETOra（エトセトラ）」

せとうち広島DCを契機に新たな観光列車を導入。ラテン語で「その他いろいろ。等々。…など。」という意味をもつ〝et cetera〟ということばになぞらえ、瀬戸内が次から次に紹介したくなる魅力に溢れていることを表現。「えっと」は広島弁で「たくさんの」「多くの」という意味ももっている。

導入時期は2020年秋の予定。運行線区は呉線および山陽線（宮島口～尾道駅間）。使用車両はキハ47系気動車で2両編成。デザインの外観は瀬戸内海の「青」や海岸線から見える波の「白」などで「せとうち」を表現。

エトセトラ（イメージ）